

令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

<調査研究報告書タイトル>

オンラインコンテンツを活用した、妊産婦等に対する情報提供に関する調査研究

<実施主体名>

公益社団法人日本産婦人科医会

(以下、調査研究報告書の概要を記載。)

コロナ禍にあって分娩取扱医療機関での母親（両親）学級が中断され、妊産婦へのケアが十分に行き届かない状況下で、医療機関への電話相談や行政への相談が増え、また、産後うつが増加している。そのような社会状況にあっても、妊産婦等の不安に寄り添っていくため、妊娠・出産・子育てについての正確な情報提供が必要である。そこで、コロナ禍にある医療機関などの情報提供を補完するツールとして動画を作成し、妊産婦などが自由に視聴できるようにすることで、不安の軽減につなげることを目的に本事業を実施した。

動画の内容は、妊娠を考える時期から始まり、妊娠中、分娩を控えて、また、分娩後の子育ての時期における視聴を想定した動画を合計10本作成した。女性や妊婦にとって、妊娠した際に何に対して不安を抱くか、妊娠前に知っておくことで不安の軽減に役立つことは無いか、妊娠後の経過中に理解しておくこと、分娩に向けて知っておいて欲しいこと、子育てにあったって知っておいて欲しいこと、という観点から動画のタイトルを選定して、順にシナリオを作成、動画内容として掲載すべき資料作成を行ったうえで、協力者の意見を聴取して修正を重ね、最終シナリオを作成した。具体的には、「プレコンセプションケア」、「妊娠中の生活1：妊娠したら」、「妊娠とお金と仕事」、「妊娠と食事」、「パートナーと一緒に」、「妊娠中の生活2：出産に向けて」、「妊娠中のメンタルケア」、「吸引分娩と鉗子分娩」、「帝王切開とは?」、「赤ちゃんとの絆づくり」のタイトルで動画を作成した。

この動画はYouTubeとして日本産婦人科医会のホームページ上に公開しており(<https://mcmc.jaog.or.jp/pregnants/sessions/42>)、妊婦が自由に視聴できるようにしている。また、同時にこの動画へのアクセスを促進するために、妊婦にこの動画の存在を知らせるチラシも作成しており、日本産婦人科医会のホームページ上から産科医療機関でダウンロードして印刷して配布可能とした。

さらに、実際の視聴した者に対してアンケート調査を実施し、動画の分かりやすさ、情報が役立ったかについて評価したが、回答の大部分は肯定的な評価であり、この動画が、当初の目的である妊産婦への適切な情報提供に資するものと判断された。この資料の有効活用に向けて、この資料についての広報に引き続き取り組んで行く必要があり、今後、日本産婦人科医会の母子保健部会と連携して取り組んでいく。